

後期 (2011/9/26～10/7) 全日程 AM9:30～16:30

日時	講座名	講師名	時間数	備考 (教室)
9/26 (月)	プレパレーション&ディス トラクションⅡ	井上絵未(3) / 桑原和代(3)	6	10号館1階 105
9/27 (火)	研究方法 I 治癒的遊びⅡ	田中恭子 山地理恵	2 5	8号館1階 3番教室
9/28 (水)	療養環境	松井基子	6	9号館4階 第2会議室
9/29 (木)	子ども療養支援概論 I	藤井あけみ	6	9号館4階第2 会議室
9/30 (金)	家族・兄弟姉妹の支援	石田智美	6	8号館1階 3番教室
10/3 (月)	病院システム 研究方法論	林 富 小澤美和	3 3	8号館1階 3番教室
10/4 (火)	子どもとおもちゃ 医療保育士との協働	多田千尋 中村嵩江	4 2	10号館1階 105
10/5 (水)	プログラムの運営・管理	石田智美	6	9号館4階 第2会議室
10/6 (木)	特別講義「多職種と連携する ためには」保育士・看護師	細谷亮太 及川郁子	2 3	8号館1階 3番教室
10/7 (金)	グリーンケア	伊藤麻衣	6	8号館1階 3番教室
10/8 (土)	まとめ&子ども療養支援概 論Ⅱ	藤井あけみ	6	未定

* 合計講義時間数：66 時間

* () 内はそれぞれの時間数

子ども療養支援士 養成プログラム マンスリーセッション予定表

日程：2011年～2012年、該当月の第4土曜日 12:00～18:00

時間数：6時間（1日）×8回＝48時間

内容：ケーススタディ、ディスカッション、ロールプレイ、病院見学など

場所：東京、大阪他

担当：各教育委員

日時	主な担当者	内容（空欄は追って連絡）	会場
5/28	後藤・早田・伊藤		大阪・東京
6/18	教育委員		東京
7/30	後藤・伊藤		大阪
8/27	後藤・早田・伊藤・田中		大阪・東京
10/8	教育委員		東京
11/26	後藤・伊藤		大阪
1/28	後藤・早田・伊藤・田中		大阪・東京
2/25	教育委員全員	研修報告会	東京

研究報告③－2：平成23年度子ども療養支援認定コース講義報告

協力研修者：井上絵美

今年度は前期後期と2タームで、合計で140時間の講義が行った。
各講義名講義予定表を参照のこと。

私の講義は、前期の講義は4月に行い、前期ではプレパレーションとディストラクションの定義、背景、目的、理論やプレパレーションとディストラクションのためのアセスメント・計画・実践・評価についての基礎を座学として学びました。
また、プレパレーションとディストラクションにおいては座学だけでは得られない部分を補うために演習を複数取り入れた。

子どもに優しい言葉についてのディスカッションでは、普段医療現場で何気なく使われている言葉（“抑える”、“刺す”、痛みの表現など）を改めて子どもにはどう聞こえるのか、どう言いかえることができるのかについて検討を行った。

CLSが実際に患者さんとご家族から許可を得て実際のPost procedure playの様子を録画したビデオ観賞も行った。このビデオはトータルで20分ほどと長いものでしたが、実際の介入の様子を考えると決して短い物ではないと思い、使用し、受講生からも「思っていたよりももっと子ども中心に関わりを展開していることに気づかされた」という感想が聞かれるなど、やはり実習として現場に出る前に実際の様子を見て学べる部分も大きかったようである。

また、チャイルド・ビジョンという子どもの視野を体験できるツールを使った処置を受ける子どもの視野体験も行った。この演習では、ディストラクションの際の大人の立ち位置や子どもの姿勢についての体験を伴って検討でき、ディストラクション用ツールも座学で紹介するだけでなく、実際に受講生が医療者役、子ども役となりながら、ツールを使用しながら効果的なディストラクションについて学ぶ機会にもなったと考える。

前期の講義の最後に、後期に向けた課題として各自1つ疾患や処置を選び、対象の年齢など背景についてのシナリオと介入方法を考え、その際に活用できるツールを作成して伝えるように伝えた。

後期の講義は9月に行い、受講生に前期で提示した課題をロールプレイという形式で発表してもらった。すでに実習に出ている時期ではあったが、受講生が自分でプレパレーションを行っている機会がない時期でもあり、ロールプレイを行い、講師や他の受講生からフィードバックを得ることで、子どもに伝える内容の吟味や介入時間の長さについて実践の前に検討できる機会になったと考える。

自分が行っているプレパレーションやディストラクションを他者に評価してもらう機会は実際の現場に出しまうとほとんどなくなってしまうので、今後のキャリアの中でも貴重な機会になったのではないかと考える。

以下、当研究協力委員による講義の内容報告を掲示する。

<H23年度子ども療養支援協会講義内容報告>

<担当者> 田中恭子

<講義日時> 4月12日9 時30分～

<タイトル>

アセスメント・記録

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

1. 健常児の基本的な発達を知り、実際に観察することで総合的にアセスメントする力を養う。
2. 病児特有の心理情緒的反応と疾病が発達に及ぼす影響など、それらの特徴を知る。
3. 療養環境におけるこどもと家族を第三者的に観察し、こどもの身体状況、心理発達状況に適した遊び 支援の計画を行い、実行する力を養う。

- ①こどもの成長と発達概論(エリクソン、ピアジェ)
- ②様々な発達領域とその年齢における特徴を学ぶ
- ③アセスメントの意義とその具体的方法(遊びの介入など)を学ぶ
- ④記録のとり方ポイントを説明

<参考図書・教材> 使用した教材やツールについて

・Richard H., Thompson(2009) The Handbook of Child Life: A Guide for Pediatric Psychosocial Care
・Mark Nennet, Childs as a psychologists. 心の理論・発達心理学 福村出版
・小児看護 2006年5月号, プレパレーションの理論と実際, 第29巻第5号, へるす出版
・田中恭子編著 プレパレーションガイドブック 日総研出版 2006
・その他文献等

<課題レポート>

あり

タイトル

なし

<H23年度子ども療養支援協会講義内容報告>

<担当者> 平田 美佳

<講義日時> 4月15日 9時30分～14時30分

<タイトル>

子どものストレスコーピング
～病気や障がいをもち療養している子どもたちのためにできること～

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

- ・ストレスとは？
- ・ストレスサとなるもの
- ・ストレス反応とは
 - －科学的に見てみよう
 - －発達段階別に見てみよう
 - －状況別に見てみよう
- ・ストレスコーピングとは？
- ・子どものコーピング能力を支える
- ・ストレスサとなるものの軽減
 - －病院環境の工夫
 - －説明不足・理解納得できないこと
 - －人との関係の変化
- ・専門家として遊びを活用する

講義のなかで、3つの事例を活用し、その事例についてのディスカッションを行い、具体的な実践と知識を少しでも結び付けられるようにした。

<参考図書・教材> 使用した教材やツールについて

英国の小児病院の子どもたちの様子を映像にしたDVDを解説を交えながら視聴することで、専門職種が子どもに一定の知識や技術をもって関わることの意味、子どもたちの変化を理解できるようにした。

<課題レポート>

あり

タイトル

なし

<H23年度子ども療養支援協会講義内容報告>

<担当者> 平田 美佳

<講義日時> 4月21日 14時30分～16時30分

<タイトル>

医療安全

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

- ・統計:小児の死因順位、年齢別に見た不慮の事故の種類別死亡数
- ・子どもに起こりやすい事故
- ・子どもの発達と事故
- ・生活のなかでの事故予防対策
- ・子どもの入院生活と事故
- ・子どもの運動機能の発達と起こりやすい事故
- ・医療者の不注意による事故
 - ー転倒・転落 ーきり傷・打撲 ー熱傷 ー窒息・誤飲
 - ー与薬事故・チューブトラブル ー院内感染
- ・子どもの窒息・誤飲予防(誤飲チェッカーの紹介など)
- ・おもちゃの使用と選択・感染予防・玩具を介しての感染予防勧告
- ・子どもと親(保護者)への安全教育
- ・病院のセーフティマネジメント

講義のなかで、事前学習として渡した3つの事例を活用し、その事例についてのディスカッションを行い、具体的な実践と知識を少しでも結び付

<参考図書・教材> 使用した教材やツールについて

Avila-Aguero ML et al: Safe Toys Study Group:Toys in a pediatric hospital; are they a bacterial source? Am J Infect Control, 32(5):287-290, 2004.
社団法人日本家族計画協会「誤飲チェッカー」説明書
目黒香織他:国立成育医療センター病院における医療安全対策(2). 小児看護, 26(13):1712, 2003.
厚生統計協会編:国民衛生の動向, 厚生衛生協会, 2008.
飯田修平編:医療安全管理者必携 医療安全管理テキスト. 日本規格協会, 2010.
山中龍宏:絵で見る事故予防の具体策. 月刊母子保健576:6-7, 2007.

<課題レポート>

あり

タイトル

なし

<H23年度子ども療養支援協会講義内容報告>

<担当者> 増子孝徳

<講義日時> 4月22日9時00分～

<タイトル>

医療における子どもの人権

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

- I 子どもの権利について
 - 1 子ども観の歴史的変遷
 - 2 基本的人権について
 - 3 日本国憲法と子ども
 - 4 子どもの権利条約の概要
 - 5 憲法と子どもの権利条約との関係
- II 患者の権利について
 - 1 世界の動向
 - 2 国内の動向
- III 医療を受ける子どもの人権
 - 1 患者の権利と子どもの権利のはざま
 - 2 親に付き添ってもらえる権利
 - 3-1 遊びに完全参加する権利
 - 3-2 教育に完全参加する権利
 - 4 医療に主体的に参加する権利
 - 5 世界的動向

<参考図書・教材> 使用した教材やツールについて

栃木県弁護士会「医療を受ける子どもの人権」(明石書店、2007)
日本国憲法、子どもの権利条約、WMAオタワ宣言、WMAリスボン宣言

<課題レポート>

■ あり

タイトル

- 1 インフォームド・コンセントの権利について、患者本人が子どもである場合は、その保障をどう考えるか。また、親や医療者(子ども療養支援士を含む)にはどのような姿勢や役割が期待されていると考えるか。
- 2 あなたが勤めている病棟では、面会時間が定めてある。面会は両親にのみ認められており、きょうだい等は面会できない。管理者は「感染予防のため」と言っている。あなたが改善を求めるとしたら、どのような論理で説得するか。

<H23年度子ども療養支援協会講義内容報告>

<担当者> 桑原和代・井上絵未

<講義日時> 4月20日 9時 30分～

<タイトル>

プレパレーション&ディストラクション I

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

- ・プレパレーションとディストラクションの定義、背景、目的、理論
- ・プレパレーションとディストラクションにおける、発達段階ごとのアセスメント・計画・実践・評価
- ・子どもに優しい言葉についてのディスカッション
- ・チャイルド・ビジョンを使った処置を受ける子どもの視野体験
- ・ディストラクション用ツールの紹介、体験
- ・Post procedure playのビデオ観賞
- ・後期に向けての課題発表

<参考図書・教材> 使用した教材やツールについて

チャイルド・ビジョン
☆Rollins, A. Judy., Bolig, Rosemary., Mahan, C. Carmel.(2005) Meeting Children's Psychosocial Needs: Across the Health-care Continuum
☆Richard H., Thompson(2009) The Handbook of Child Life: A Guide for Pediatric Psychosocial Care
☆小児看護 2006年5月号, プレパレーションの理論と実際, 第29巻第5号, へるす出版
☆相吉恵(2010): 子どもの発達と「麻酔」のとらえ方からかわりを考える—麻酔科医とCLSの連携—, 日本臨床麻酔学会誌, 29(7), 771-779
http://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsca/29/7/771/_pdf/-char/ja/

<課題レポート>

あり

タイトル

なし

<H23年度子ども療養支援協会講義内容報告>

<担当者> 桑原和代・井上絵未

<講義日時> 9月26日 9時 30分～

<タイトル>

プリパレーション&ディストラクションⅡ

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

プレパレーション&ディストラクションⅠで提示した課題の発表
課題:各自1つ疾患と処置を選び、対象の年齢など背景についてのシナリオを作り、
介入方法を考える。その際に活用できるツールを作成してくる。

各自が取り組んだ課題をロールプレイという形式で発表。
それぞれの内容についての意見交換を行った。

<参考図書・教材> 使用した教材やツールについて

☆Rollins, A. Judy., Bolig, Rosemary., Mahan, C. Carmel.(2005) Meeting Children's
Psychosocial Needs: Across the Health-care Continuum

☆Richard H., Thompson (2009) The Handbook of Child Life: A Guide for Pediatric
Psychosocial Care

☆小児看護 2006年5月号, プレパレーションの理論と実際, 第29巻第5号, へるす出版

☆相吉恵(2010):子どもの発達と「麻酔」のとらえ方からかわりを考える-麻酔科医とCLSの連携-, 日本臨床麻酔学会誌, 29(7), 771-779

http://www.jstage.jst.go.jp/article/jisca/29/7/771/_pdf/-char/ja/

<課題レポート>

あり

タイトル

なし

<H23年度子ども療養支援協会講義内容報告>

<担当者>松井 基子

<講義日時> 9月 28日 時 分～

<タイトル>

療養環境

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

- ①環境とデザイン:ディスカッション(自身の受診体験からの掘り出し/実習先で気づいたこと)、環境における社会心理的視点からみた理論(環境心理学—プライバシーやパーソナルスペース、コントロール感など)、特定の施設・設備における理論の応用について(処置室や検査室、プレイルーム、家族のためのスペース)、デザインプロセス(多職種協同、家族中心ケア)
- ②おもちゃ:おもちゃの役割、発達段階の振り返り(ワークシートを用いて)、発達段階と適切なおもちゃの選択(グループワーク)、安全面の注意
- ③行事・催し物:計画の仕方、注意事項、ディスカッション
- ④ボランティア:ボランティアとは、病院におけるボランティア、ボランティア活動の管理運営、支援士としての役割、ディスカッション(ケーススタディ)

<参考図書・教材>

- ・谷川弘治・駒松仁子・松浦和代・夏路瑞穂(編) 2009 病気の子どもの心理社会的支援入門 ナカニシヤ出版
- ・Wilson, Jerriann M., Palm, Sheila., Skinner, Linda: Guidelines for the Development of Child Life Programs in Health Care Settings. Rockville, MD. Child Life Council Inc. 2006.
- ・Rollins, Judy A., Bolig, Rosemary., Mahan Carmel C: Meeting Children's Psychosocial Needs Across the Health-Care Continuum . Austin, Texas. Pro-Ed. 2005.

<課題レポート>

あり

タイトル

なし

<担当者> 田中恭子

<講義日時> 9月27日 9月 30分～

<タイトル>

研究方法 I

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

1. 海外を中心としたプレパレーションの先行研究からその実益について検証する
2. 文献等から適切なアセスメントの手法を学ぶ
3. 評価方法である、生理学的、生化学的評価、行動観察法、セルフレポート手法などの方法を学び、結果から考察を導く理論を学ぶ
4. 倫理的側面の強いケアに対する科学的研究の限界とその必然性についてを論じる
5. 日本での、研究結果について紹介

<参考図書・教材>

- ・Richard H., Thompson(2009) The Handbook of Child Life: A Guide for Pediatric Psychosocial Care
- ・CLC inc, Psychosocial care of children in hospitals; A clinical practice manual
- ・小児看護 2006年5月号, プレパレーションの理論と実際, 第29巻第5号, へるす出版
- ・田中恭子編著 プレパレーションガイドブック 日総研出版 2006
- ・その他、小児看護、など。

<課題レポート>

あり

タイトル

なし

<H23年度子ども療養支援協会講義内容報告>

<担当者> 山地理恵

<講義日> 9 月 27 日 11時 00 分～

<タイトル>

治癒的遊びⅡ

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

①前期講義の振り返り・遊びの重要性について ②場面ごとの遊びについて・スライドをもとに、実際の病院における遊びについてディスカッションしながら考える(ベッドサイド・プレイルーム・多職種連携による遊びの計画・発達段階に応じた玩具類の選定と遊びの工夫) ③順天堂大学附属病院で実施している外来児対象とした発達支援のためのわくわくタイムを見学 ④演習 プレイプログラム案を参考に、実際に3種類の製作を行う。作成しながら、目的、場面、留意点、対象年齢、対象人数などについてディスカッションしながらアイデアを出し合い学びあう

<参考図書・教材> 使用した教材やツールについて

・資料:CRITERIA for Selecting PLAY EQUIPMENT(1981)から抜粋し作成した表
・辻井正 保育が変わる子どもが変わる～おもちゃのある保育室～1996編集
工房ノア ・Robyn Hart, Judy Rollings Therapeutic Activities for Children and
Teens Coping with Health Issues John Wiley&Sons,Inc 2011

<課題レポート>

あり

タイトル

なし

<H23年度子ども療養支援協会講義内容報告>

<担当者>	石田智美
<講義日時>	9月 30 日 9時30分～16時30分

<タイトル>

家族・兄弟姉妹の支援

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

フリーディスカッション

・自分のきょうだいについて(いてよかった点、困った点、兄弟が病気の時の気持ちなど)

・患児のきょうだいの気持ち(どんな感情が挙げられるか、年代別、状況別など分けて考える)

講義:

きょうだいの気持ち、支援の在り方・ケアの基本理念について、国内・海外の支援体制、支援団体について

フリーディスカッション:

・親が病気になったとき、こどもは何をみて、何を聞き、何を感じるか

講義:

親が病気になったときのこどもの気持ち、支援の在り方・基本理念について、国内・海外の支援体制、支援団体について

<参考図書・教材> 使用した教材やツールについて

自分がインターン先の病院で使用していたきょうだい支援パンフレットやChild Life講義ノート。参考URLとして、「しづたね」<http://www004.upp.sonet.ne.jp/hisamo/sibtane.html> 「きょうだい支援の会」http://www.geocities.jp/ssgj_tokyo/index.html、" Sibling Support Project <http://siblingssupport.org/>、「Hope Tree」<http://www.hope-tree.jp>など。

<課題レポート>

あり

タイトル

なし

<H23年度子ども療養支援協会講義内容報告>

<担当者> 石田智美

<講義日時> 10月 5 日 13時～16時30分

<タイトル>

プログラムの運営・管理

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

①毎日の活動を計画する(情報を集める方法、どんな情報を集めるか、アセスメントする一番ニーズの高いケースは?ケースごとに実際に計画を立ててみよう!(ケーススタディ)、評価の仕方)
②他職種とのコミュニケーションについて(専門性の理解、役割分担について)
③情報の共有(カルテへの記入、記入の意義、記入方法、閲覧の仕方) ④
プレイルームの運営(おもちゃ・本・DVDの管理、利用の際の規則、プレイタイム等を企画するか、こんなプレイルームを作りたい!～自由に部屋を作ってかいてみよう～(演習)→発表・ディスカッション) ⑤予算について
(活動資金、年間の購入計画など) ⑥ボランティアとの連携(ボランティア・コーディネートの理念、ニーズを合わせること、家族・医療者への周知等)

<参考図書・教材> 使用した教材やツールについて

Child Life Volunteer Information Handbook (インターン先病院で使用していたボランティア用ルールブック)

<課題レポート>

あり

タイトル

なし

<H23年度子ども療養支援協会講義内容報告>

<担当者> 伊藤 麻衣

<講義日> 10 月 7 日

<タイトル>

グリーフサポート ～
Child Lifeの視点からみた病院にかかわる子どもたちへのグリーフサポート～

<講義内容> 演習の有無など含めて具体的に

クラスを通してグリーフサポートの基本的知識や視点、セルフケアの大切さを伝えるとともに、他者の立場にたって考え、サポートすることの大切さを伝えるため、DVDや参考教材を活用し、常にディスカッション形式ですすめました。具体的な内容は1. Ice Breakerとして、それぞれの希望する“自分のお葬式・メモリアルサービス”を発表してもらい、正解・不正解はないこと、今までの経験がいかに影響しているか、いろいろな考え方があることを感じてもらう 2. DVD(Life～天国できみに逢えたら～)抜粋部分を鑑賞 3. スライドを使用し、グリーフ・別離・死について文化的・歴史的背景を含めて説明する 4. 子どもたちに焦点をあて、年齢別に子どもたちの死への典型的な理解や反応に言及し、子どもを支えるかかわりについて具体的に紹介する 5. 兄弟姉妹、緩和ケアについて 6. DVD(My Sisters Keeper)抜粋部分を鑑賞 7. 専門職としてのサポート姿勢を具体的なアクティビティも含めて紹介する 8. セルフケアの大切さについて 9. まとめ

<参考図書・教材> 使用した教材やツールについて

<DVD>Life～天国できみに逢えたら～、My Sisters Keeper <動画>“Get Back Up” by Nick Vujicic <本>

<課題レポート>

あり

タイトル

なし

平成23年度 子ども療養支援士 認定コース 実習のまとめ

大阪府立母子保健総合医療センター 指導者 伊藤麻衣、後藤真千子

《病院概要》 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供し、母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めることを基本理念とした子ども病院である。371床の内、小児部門 211 床 内訳は外科系・内科系病棟 120 床、循環器病棟 33 床、ICU8 床である。

《実習内容》主に外科系・内科系病棟でおこなった。

5月 第一週 病院紹介、院内ルール説明、院内実習ハンドブックの説明、シャドウイングの説明、科エンターション(院内閣部門)、ホスピタル・プレイ室プレイルーム移転 (以下 HP 室と記)、ホスピタル・プレイ士 (以下 HP 士*と記) に付いてシャドウイング開始

第2周シャドウイング、安全管理(看護副部長)、科エンターション

第3・4週目 科エンターション、シャドウイング、1日の振り返り開始

6・7月 科エンターション、シャドウイング、1日の振り返り、新 HP 室プレイルームの設置作業、遊びの関わり

8月 遊びの関わり、シャドウイング、1日の振り返り→夏期休暇

9月 夏期休暇

10月 プレパレーション・ディストラクションの練習開始、遊びの関わり、シャドウイング、1日の振り返り

11月 プレパレーション・ディストラクションの実践トレーニング、シャドウイング、1日の振り返り、外部見学実習

12月 プレパレーション・ディストラクション・その他実践トレーニング、1日の振り返り、外部見学実習

1月 プレパレーション・ディストラクション・その他実践トレーニング、1日の振り返り、まとめ

2月 卒業研究、成果ファイルのまとめ

前期：5月～6月にかけては病院の規則になれること、実習生の希望する科エンターション先のすべてを見学し当病院の医療関係者はもとより教育関係者等もどの様に心を砕いて、子どもとその家族に接しておられるかを学ぶこと、その環境に子ども療養支援士がどの様に関与できるかを考える事を主軸に、シャドウイングで HP 士の活動を細部まで見知り、内容を把握・理解する事に重点を置いた。

6月末からは実際に遊びを通しての子どもとの関わりを始める。特別の機会として、新 HP 室プレイルームの設置の計画・実行に主に関与し、子どもの視点に立ち、動線、玩具の配置、快適で安全環境整備を践的に学ぶ。シャドウイングでは、検査・処置・手術等のプレパレーション・ディストラクション・処置後の関わりを通じたストレス軽減のための子どもと家族の支援、青少年ルームや HP 室プレイルームでの特別な遊びの関わり、チームの一員としての他職種との関わりを学ぶ。病棟カフェにも参加した。

7・8月は、個別の遊びの関わり時間が増加、青少年との遊びの関わりや HP 室プレイルームでの個別遊びにも参加する。学期の前後にベンチマークによる自己評価をする

後期：10月からは、実践のためのプレパレーション・ディストラクションの練習を開始すると同時に、ケーススタディ、アセスメント記録、個別の遊びプログラム等、課題に着手する。また、他職種とのコミュニケーションをとることも含め、子ども療養支援士として独り立ちできることを目標に実践訓練を開始する。

前後期を通じて、毎日、30分～1時間ほど時間をり、学生と指導者で1日の報告、質疑応答、明日の計画、追加的教育をおこなった。

母子センターでは、各病棟に保育士がおり一般遊び、集団遊び、日常生活の援助をおこなっている。HP士は医療に密着した患児の援助をすることが多く、遊びは、個別の特別な遊びが多い。順天堂大学病院での外部見学実習におけるプレイルームでの遊びは、不足しがちなプレイルームでの一般遊び・集団遊びを補うものとなった。

1月末まで、実践トレーニングを続けた。

2月には、個別指導による卒業研究、成果ファイルの完成に励んだ。

*ホスピタル・プレイ士：院内名称で、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、ホスピタル・プレイ・スペシャリスト、子ども療養支援士の総称。

子ども療養支援士認定コース・順天堂医院における実習

指導者：早田典子 田中恭子

子ども療養支援士認定コース 実習計画 (前期)

	5月	6月	7月	8月	9月
実習場所	10A・10B	10A・10B	10A・10B	10A・10B・外来	10A・10B・外来
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟環境に慣れる ・ 子どもの1日の生活を知る ・ リスクマネージメントを学ぶ ・ 感染対策を学び、従う。 ・ 情報の入手方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレイルームを安全に管理・運営する。 ・ 子どもの成長、発達を観察し、アセスメントする。 ・ 遊びのプログラムを考え実行する。 ・ 多職種役割を知る。 * 協力依頼: 訪問学級、リハビリ、CNS、心理士、各種ボランティア等 ・ 病名や病状、治療過程を学ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種と情報交換する。 ・ プリパレイションを計画・実行する。 ・ ディストラクションを計画・実行する。 ・ 家族背景を理解し、家族を支援する。 ・ 様々な病院に行き、実習見学を行う。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日誌 ・ 5/9(月)14時～RMLレクチャー(石川師長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日誌 ・ 子どもの観察と発達アセスメント記録 ・ 遊びケアプログラム ・ オリエンテーション報告 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 日誌 ・ プリパレイション・ツールの作成 ・ ディストラクション・ツールの作成 ・ 見学実習レポート 	
病棟行事			・ 夏祭り	・ (きょうだいの集い・DMキャンプ)	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ シャドーイング期間 ・ 5/11(水)医師カンファレンス ・ 5/25(水)～5/31(月)早田不在のため休み(CLCカンファ参加のため) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6/18(土) 総会 	・ あしがらキャンプ(難病ネット)	<ul style="list-style-type: none"> ・ DMキャンプ ・ 被災地の子どものキャンプ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み: / () ~ / ()

子ども療養支援士認定コース 実習計画 (後期)

	10月	11月	12月	1月	2月
実習場所	10A・10B・外来	10A・10B・外来	10A・10B・外来	10A・10B・外来	10A・10B・外来
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期を振り返り、後期の目標を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職として自立した活動をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職として自信をもって働けるように、総仕上げをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な病院に行き、実習見学を行う。 ・ 修了研修発表会の準備をする。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日誌 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日誌 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日誌 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日誌 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日誌 ・ 見学実習レポート
病棟行事	・ チャイルド・パーティー		・ クリスマス	・ もちつき	・ 節分豆まき
備考		・ M2 小児実習・学生の監督プレゼン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬休み: 12/23(金)～1/3(火) 		

子ども療養支援士 認定コース 週間実習プログラム

	月	火	水	木	金	土
午前 (9時半～12時)	10A (小児外科病棟)	10B	10A	10B	※PBL/ カンファレンス	マンスリー セッション (日程別紙 参照)
13時～14時	病棟カンファレンス／入院生活プレパレーション					
午後 (14時～16時又は17 時)	10B (小児病棟)	10A	10B	10A	10A／10B/ PBL	
ボランティア活動				第1・第3 読み聞かせ	おうたの会・ 学習	遊び・ アートセラピー
備考	子どもの時間	子どもの時間 第3:親の会 第4:外来わくわく アメニティ 委員会	第1:10Bわくわく 第3:10Aわくわく	子どもの時間		

※PBL(Problem-Based-Learning):

1週間の実習を振り返り、実習生が実習担当者に質問したり、実習生同士で気持ちを共有したり学び合うための時間。